

1 級 実技（面接）試験実施概要

実技（面接）試験は、以下の実施方法により行われます。

1. 実施方法：ロールプレイ …… 30 分
口頭試問 …… 10 分
2. 事例は、次頁の 3 ケースのうちから 1 ケースが出題されます。
3. 受検者は、民間の相談機関等において、キャリアコンサルティングの実践を行いながら、キャリアコンサルタントに対して事例指導の役割を担っていると仮定してロールプレイを行います。
事例指導とは、相談者へのよりよい支援と、事例相談者のキャリアコンサルタントとしての成長を目的に、事例相談者の担当する事例を通して指導を行うものです。具体的には、相談者に対する面談過程、事例の見立てや対応の方針、組織への働きかけ、リファーマーやコンサルテーション、事例相談者に不足する態度、役割意識、知識やスキル等について、気づきを促し情報提供や助言を行うことです。
4. 事例相談者（キャリアコンサルタントの役割）は試験係員が担当します。
5. 最初に受検者（事例指導者）から自己紹介（ご自身の専門領域や理論的な立場などについて 1 分程度で説明）し、事例相談者に対し事例内容についての説明を求めてください。その後の事例指導の進め方は自由ですが、事例相談者との間に教育指導関係を築き、事例を通して事例相談者の問題を把握し、事例相談者への育成的な目標を設定するなど、具体的な指導を行うよう心がけてください。
6. 受検室にボールペンとメモ用紙を 1 枚準備します。受検中は自由に使用可能です。なお、ボールペン、メモ用紙は一切持ち出しできません。
7. ロールプレイ後、口頭試問を行います。
口頭試問の例：
①今回のロールプレイを振り返って、ご自分の良かった点、改善したい点は何ですか。
②この事例相談者の事例の進め方の問題は何か。
③事例相談者の問題を事例相談者と共有するためにどのような働きかけをしましたか。
8. 合格基準は 100 点満点で 60 点以上の得点です。評価区分は基本的態度、関係構築力、問題把握力、具体的展開力の 4 区分です。なお、評価区分ごとに満点の 60%以上の得点（所要点）が必要です。
9. 厳正な採点を行うため、面接試験内容を録音します。受検者は受検に際し、資料等の持ち込み、録音は一切できません。なお、録音をしていた場合は失格となります。

厚生労働大臣指定試験機関
特定非営利活動法人キャリアコンサルティング協議会

〒105-0011 東京都港区芝公園 1 丁目 6 番 8 号泉芝公園ビル 5 階
TEL 03-5402-4688

【1級 第8回 実技（面接）試験 ロールプレイケース内容】

ロールプレイは、事例相談者と受検者（事例指導者）のみで行います。相談者に関することはロールプレイの中で、事例相談者に説明を求めてください。

●ケース 1

事例相談者：キャリアコンサルタント（相談歴2年）

相 談 者：Aさん、女性（43歳）

相談者が相談したこと：入社して25年目になるが、最近会社では、事務業務の効率化を目的としたAI（人工知能）やRPA（ロボットによる業務自動化）を活用したシステムの導入計画が進み、このままでは自分の仕事はなくなるのではないかと不安になってきた。また母親の介護についても心配があるということで相談に来た。

キャリアコンサルタントが相談したいこと：Aさんの仕事内容について状況を理解し、不安な思いを共感的に受け止めた。また実家で一人暮らしをする母親の介護への心配についても理解に努めた。上司や同僚、家族と相談することを助言し、一つの選択肢として転職も視野に入れながら、2回目の面談を行う約束をして終了したが、次の予約はキャンセルされてしまった。今後、キャリアコンサルタントとして、よりよい支援ができるよう指導を受けたい。

●ケース 2

事例相談者：キャリアコンサルタント（相談歴2年）

相 談 者：Bさん、女性（32歳）

相談者が相談したこと：大学卒業後、正社員として5年勤務し退社。その後、派遣社員として3社で4年半勤めている。直近の仕事は、派遣先都合により1年半で契約終了となったが、それ以来、派遣会社からの仕事紹介が積極的でないと感じている。今後について不安を覚え、登録先のカウンセリングルームに相談に来た。

キャリアコンサルタントが相談したいこと：Bさんから早く次の仕事を紹介してほしいと言われたが、Bさんが望む方向での仕事の紹介は難しいと感じ、仕方なく「お気持ちはよくわかります。ただ、直ぐに結論が出る問題ではないので今日はこれくらいにして改めてお話ししませんか」と提案して、その日は面談を終了した。しかしその後、Bさんから連絡がなく、気になってこちらからもメールをしたが返信がない。振り返ってみると、もっと適切な支援があったのではないかと感じている。今後の仕事のためにも、どうすればよかったのか、指導を受けたい。

●ケース 3

事例相談者：キャリアコンサルタント（相談歴 1 年）

相 談 者：Cさん、男性（22 歳） 国立大学経済学部 4 年生

相談時期：8 月

相談者が相談したこと：中堅食品メーカー1社から内定をもらっている。大手を希望していたが受からず、自分ではここに決めようと思っていた。しかし今後のキャリアを考えると留年して再チャレンジした方がいいかと思い、迷って相談に来た。

キャリアコンサルタントが相談したいこと：留年するのは得策ではないと思ったが、まずはCさんが今の考えや思いを話すことで、自分で意思決定できるよう、話を聴くことに徹した。その上で、相談内容やその他の課題などを整理して一緒に考えようと提案し、次の約束をしたがキャンセルとなった。もっとアドバイスをした方がよかったのか、何が不足していたのか、指導を受けたい。

以上